

Title	テモラウ ヒョウゲン ト タイゴ ニ オケル キョウ セイセイ
Author(s)	Siriwon, Munintarawong
Citation	日本語・日本文化. 34 p67-p.87
Issue Date	2008-05
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/10732">https://doi.org/10.18910/10732</a>
DOI	
rights	本文データはCiNiiから複製したものである
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

〈研究論文〉

## 「～てもらう」表現とタイ語における強制性

ムニンタラウォン・シリワン

### 1. はじめに

従来の「～てもらう」の研究は一般に、話し手の利益とかかわり、行為の受け手側を主語にして恩恵を表す表現であると論じられてきた。そして、「～てもらう」には使役に加えて、主語がその恩恵を受けるといった意味合いがあると指摘されてきた。そのため、「～てもらう」表現をめぐる日・タイ対照研究でも使役や恩恵を中心にしたタイ語表現を扱う論文が多い。

(1) 君には、これからタクシーに乗ってもらいます。

ところが、日常的な会話にも用いられる (1) のような「～てもらう」構文は、恩恵や使役が感じられず、命令に近い機能を果たしていると考えられる。本稿では (1) のような構文を「～てもらう」文末形式と呼び、この構文の機能を「強制性」と呼んでおく。

そして、日本語の漫画や小説には、(1) のような構文がよく現れる。しかし、それをタイ語に翻訳しようとした場合、「～てもらう」に対応するタイ語の表現として、先行研究で指摘されているものだけでは足りないことがわかった。本稿では、まず、先行研究における、日本語の「～てもらう」文末形式をタイ語のそれと対照させながら、両者の共通点と異なる特徴を抽出し、「～てもらう」文末形式に対応するより適切なタイ語表現を見出していきたい。

### 2. 先行研究

日本語の授受表現の先行研究において、益岡 (1991)、仁田 (1991)、高見 (2000) は、「～てもらう」構文は「恩恵性」をもつと述べている。「～てもらう」の恩恵

性は「恩恵・利益」という形で、話し手のために人がある行為をし、それによって、話し手がメリット、利益、恩恵を受けるという意味であるとしている。例文(2)では、「ほめる」という行為によって、話し手は利益を得ることを表している。

(2) 先生に作文をほめてもらった。

そして、「～てもらう」表現は、使役文との比較もよく見られる。益岡(2001)は(3)のように相手に対する働きかけがみとめられるものを使役型「～てもらう」構文と呼び、主として使役的な性質の有無において(4)のような使役文と対立すると指摘している。

(3) 花子に(頼んで)代わりに行ってもらった。

(4) 花子に代わりに行かせた。

使役型「～てもらう」構文は相手に依頼して事態の実現を図るのに対し、使役文は自らの意向を一方的に押し付けるという強制の意味合いが強いとしている。仁田(1991)はこれを、話し手が相手たる聞き手に自らの要求に沿った動きの実現を訴えかけ、働きかけるといった「発話・伝達のモダリティ」として位置づけしており、山田(2004)はこのような性質を「働きかけ性」と呼んでいる。

しかし、実際に小説や漫画などの例文を考察すると、(1)のような「～てもらう」構文には、話し手の要求に沿った行為が実現されることを前提としている一方で、相手にそれに応ずる意志・好意がない場合が多く見られることがわかった。このような「～てもらう」構文はいわゆる「命令」に近い性質とも言える。

一方、「～てもらう」表現の日・タイ語対照研究も、日本語の研究を基にして、恩恵性の「～てもらう」構文と働きかけ性のある使役型「～てもらう」構文に相当する表現については既にいくつか指摘されており、日本語教育の面からは、江田(1983)と中田(2002)のものがある。両者をまとめると、日本語の「～てもらう」「～ていただく」に相当するタイ語の表現は、①動作行為の与え手側と受け手側の変換 ② *dâiráp* (*dâi*) を用いた表現 ③ *hâi* を用いた表現 ④ *khǎw*、*khǎwhâi* を用いた表現の4つの形式に分類される。

#### ①動作行為の与え手側と受け手側の変換

「タイ語では、一般的に「YはZにXしてモラッタ/イタダイタ」という言い方ではなく、「ZはYにXしてアゲタ/クレタ」という言い方を好む傾向がある。

## (5) อาจารย์สอนภาษาญี่ปุ่นให้ผม

ʔaaçaan      [sǔwǎn]      phaasǎa yǐipùn      [hǎi]      phǒm

名詞(主語)      動詞      名詞(目的語)      助動詞      代名詞(間接目的語)

先生      教える      日本語      与える      私

[先生は私に日本語を教えてくれた]

(私は先生に日本語を教えてもらった)

## ② dǎiráp (dái) を用いた表現

dǎiráp (dái) は「受け取る」という意味の本動詞であるが kaan, khwaam という名詞化接頭辞を用いて、それらの行為を受けるという意味で「～てもらう」の意味を表す。そして、dǎiráp (dái) は「(機会を) 得る」という意味に解釈され、恩恵を受ける具体的な状況を述べる文となる。

## (6) ถ้าได้วิธีการสอนวิธีทำอะไรใคร ๆ ก็ทำได้

tháa      [dǎiráp]      kaansǔwǎn      wíthiitham      lakǔw      khrai khrai      kǔw      thamdái

副詞      動詞      名詞(目的語)      名詞      接続詞      疑問詞      接続詞      動詞

もし      受取る      教えること      する方法      なら      誰でも      できる

[作り方を教えてもらえば誰でもできます]

## ③ hái を用いた表現

hái は使役助動詞であり、本来は「YはZにXサセタ」という使役構文で用いられるが、意味的には「YはZにXしてモラッタ」という表現に通じるものとして、使用されているものである。

## (7) ฉันให้น้องชายช่วยงาน

chǎn      [hái]      nǔwǎnchaai      chúai      ɲaan

代名詞(主語)      動詞      名詞(間接目的語)      動詞      名詞(目的語)

私      させる      弟      手伝う      仕事

[私は弟に手伝ってもらった]

(私は弟に手伝わせた)

## ④ khǔw, khǔwhái を用いた表現

khǔw, khǔwhái を用いた言い方については、khǔw は元来「求める、乞う、頼む」という意味の動詞であり、hái と一緒に用いると、話し手は必ず依頼して、動作

主に行為を促すことを表す。

(8) ฉันขอให้น้องชายช่วยงาน

chǎn	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">khǎw</span>	hāi	<u>nǒngchaai</u>	chūai	naan
名詞(主語)	動詞	助動詞	名詞(間接目的語)	動詞	名詞(目的語)
私	頼む	ように	弟	手伝う	仕事

[私は弟に手伝ってもらった]

しかし、これまで日・タイの対照研究で指摘されてきたタイ語の4つの表現形式は恩恵性をもつ「～てもらう」構文と働きかけ性をもつ使役型「～てもらう」構文にしか対応せず、命令に近い機能をもつ(1)のような「～てもらう」文末形式には当てはまらないことがわかった。次の節では、先行研究に取り上げられた形式の他に、「～てもらう」文末形式はタイ語ではどんな形式で表せるのかを明らかにしたい。

### 3. 「～てもらう」表現における強制性とタイ語表現

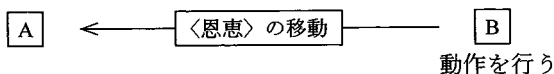
#### 3.1 「～てもらう」表現における強制性

従来より補助動詞「～てもらう」は恩恵性や働きかけ性を反映する用法だとされてきた。それらの補助動詞「～てもらう」の意味機能・用法を概念図で表すと、以下のようなになる。

「～てもらう」補助動詞：AがBにVしてもらう

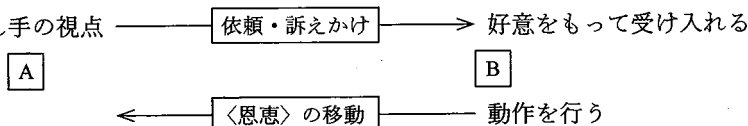
a. 恩恵性のみ表す「～てもらう」構文：例文(2)

話し手の視点



b. 依頼の働きかけ性と恩恵性を表す「～てもらう」構文：例文(3)

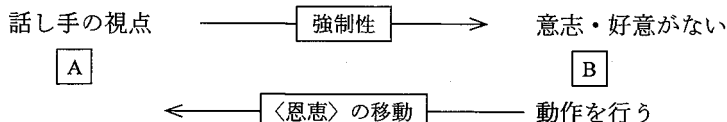
話し手の視点



ところが、既に述べたように、日常的な会話に見える(1)のような「～てもらう」構文では、話し手の要求が実現されることが前提とはなっているものの、

動作主にはそれに応ずる意志・好意が備わっていない。この構文の命令に近い機能、つまり「強制性」はcのように表すことが可能である。

c. 強制性を表す「～てもらおう」構文：例文 (9) (10)



(9) (10) の「～てもらおう」はどれも、「強制性」を持っている例文である。

(9) (筆者注：皇太后は皇帝陛下の義理のお母さんである)

皇帝陛下：ユーリが消えました！！

あなたに従うあの男の仕業でしょう！！ユーリを返していただき  
たい！！

皇太后：陛下には事件がつづいてお疲れとみえる。

皇帝陛下：なるほど。どうしてもユーリの首を落として、私を呪い、殺した  
いのですか。では、ユーリが戻るまで、皇太后には王宮にお留ま  
りいただきます。

皇太后：無理な！！わたくしは皇太后だ。そこをどけ！！自分の宮へ帰る！！

皇帝陛下：お忘れかもしれませんが、わたしはこの帝国の皇帝です。

私は許可するまであなたにはいていただきます。

(天)

(10)

叔父：まゆみ、蒼龍をつれていって支度を手伝いなさい。彬、結婚するならす  
るで、最低限の手順は踏んでもらうぞ。西園寺家には古くからのしきた  
りというものがある。

彬：(沈黙)

(蒼)

(9) (10) の「～てもらおう」を考察すると、文末における「～てもらおう」には特有の「強制性」が見られる。特にこの「～てもらおう」文末形式を命令文と比較すると、その特徴が明確になる。それは、①話し手と聞き手の「立場」の制約、②行為実現時点の制約である。

## ①話し手と聞き手の「立場」の制約

(9) (10) の「～てもらう」はどれも、命令文と同様に話し手と聞き手の地位・立場に関する制約があるが、命令文とはその認識が若干異なっていると考えられる。命令文ではなく「～てもらう」文末形式を用いることによって、話し手は自分が聞き手より高い立場にあるとし、聞き手にもそれを意識させようとするのである。つまり、「～てもらう」文末形式は、話し手の立場や権力を顕在化させる形式である。

(9) (10) では、話し手は命令できる立場・状態にあると考えられる。(9) の話し手はある帝国の皇帝であり、(10) の話し手は西園寺家では一番偉い人であるため、命令する権限があるのである。話し手側は必ずしも行為を実現する聞き手側より立場が高いというわけではなく、動作主である聞き手の方が高い立場にある場合もある。(9) は、話し手はある帝国の皇帝であるが、動作主である聞き手は皇太后であり、話し手の義理の母にあたる。最初に、話し手は「返していただきたい」という希望を表す表現を用いたが、聞き手が従う気配がないことから、強制性がある「お留まりいただきます」「いていただきます」という「～てもらう」構文を使って発話し、聞き手に話し手の権力を感じさせ、有無を言わず実現させようとしている。話し手は皇帝ではあるが、まだ若く、皇太后の義理の息子でもあるので、皇太后である聞き手には命令文が使いにくいために「～てもらう」文末形式を用いているのではないかと考えられる。

話し手は、発話する時点で、自分の意志や意図を表明するが、話し手より強い権力の存在や、聞き手が従わない傾向などを感じる事があれば、話し手は自分が命令権者であることを強調し、聞き手にそれを意識させようとする。さらに、現実の世界にあるいろいろな選択肢の中で、聞き手に、自分が指向した行為以外には選択肢はないとして、何としましてもその行為を実行させようとする強制性を発動するものであると言える。

つまり、「～てもらう」文末形式は「話し手の決定権を明示し、かつ、聞き手にとってその行為を達成する以外に選択肢はないことを明示することによって命令と同じ言語行為を可能とする形式」と特徴付けることができるだろう。

## ②行為実現時点の制約

一般に命令形式では、要求されている行為は発話直後に実現されるべき差し迫ったものである。それに対して、「てもらおう」文末形式は発話直後に実現しなければならないという制約が緩和され、発話時からいつ実現されるべきかは明示されていないように見受けられる。

(10) の「まゆみ、蒼龍をつれていって支度を手伝いなさい」という文と「最低限の手順は踏んでもらうぞ」という文をよく見ると、典型的な命令文である前者は必ず発話直後に「まゆみ」が「支度を手伝う」ことを行わなければならないのに対し、「～てもらおう」文末形式である後者は動作主である「彬」による「最低限の手順を踏む」という行為遂行時が明示的ではないため、実現するまでに少し時間の幅がある。つまり、「～てもらおう」文末形式は動作時点限定する副詞がない場合、発話直後だけでなく未来において実現すればよいという解釈が可能となる。したがって、「～てもらおう」文末形式は、命令文と比べて、要求した行為が実現されるまでの動作時まで時間の猶予がある表現であると言えよう。

このように、「～てもらおう」文末形式には従来の「～てもらおう」構文とは違って、メリットや働きかけにとどまらず、聞き手である動作主に行為を促す「強制性」をもっている。そのため、これをタイ語に翻訳する際、先行研究にあるような表現形式では十分ではなく、実際、日本語からタイ語に翻訳された実例を見ると、適切ではない翻訳が少なくない。このような「～てもらおう」文末形式の翻訳は、特に依頼表現 (khǒohái) で置き換えられる傾向がある。以下では日本語の原作がタイ語に翻訳され、出版されたものの実例を用いながら、考察する。

## (11) หม่อมฉันขอให้ประทับอยู่ในวังหลวงจนกว่าจะได้รับอนุญาต (sawan)

mǒmchǎn [khǒw hǎi] phrathápýu nai wanglǔang conkwàa

代名詞(主語) 動詞 助動詞 動詞 助詞 名詞 副詞

わたくし 願いする ように 留まる 中 王宮 まで

cà dǎiráp ?anúyáat

未来 動詞 名詞

未来 受け取る 許可

[私が許可するまであなたにはいていただきます] (天)



前掲(9)を背景にもつ(11)では翻訳者が「～ていただきます」を依頼表現として解釈し、khǎo hái を用いることにしたものと考えられる。確かに khǎo hái を使うことによって、動作主に「いる」という行為をするように働きかけることを表明できる。しかし、(9)の日本語の原作の文では、話し手は「お忘れかもしれませんが、私はこの帝国の皇帝である。」と発言して、自分の高い立場・地位を強調し、行為を行うかどうかの決定権は動作主にあるのではなく、むしろ自分にあると主張している。それに対し、「無理な!! わたくしは皇太后だ。そこをどけ!! 自分の宮へ帰る!!」という発話で、聞き手である皇太后にとって、その行為は喜ばしくないことが明らかとなる。したがって、その行為を行うかどうかの決定権が動作主にある依頼表現、khǎo hái ではそういった「～てもらう」文末形式の強制性の意味が原作通りに伝わらないように感じられる。翻訳者は依頼表現を表す使役型「～てもらう」構文につられて、依頼表現である khǎo hái を選択したのではないかと考えられる。

以上のように、「～てもらう」文末形式は「～てもらう」が実際に表している意味機能が反映されないままタイ語に翻訳されている。そこで、本稿では「～てもらう」文末形式に対するタイ語の最も適切な翻訳を提案したいと思う。

### 3.2 強制性の「～てもらう」文末形式のタイ語翻訳

「～てもらう」文末形式がタイ語に翻訳されたものを考察すると、適切ではない翻訳がよく見受けられる。一見すると話し手の地位・権力の方が動作主より低いように見えるので、依頼表現として翻訳されるものが多いのだろう。しかし、この構文における話し手と動作主の地位や権力はほぼ同等であるか、むしろ話し手の方が動作主よりも高い地位・権力を有していることを強調しているため、依頼表現に翻訳するのは適当ではないと考えられる。そこで、依頼表現に代わるものとして、このような「～てもらう」文末形式に対する翻訳は① hái を用いる表現 ② tǎng を用いる表現 ③ 命令形式を用いる表現の3つの形式に集約されると思われる。

ところが、これらの表現はそれだけでは十分ではなく、いくらか翻訳の工夫が必要であることがわかった。そのため、この節では、上記の3つの形式の用法を明らかにし、日本語の「～てもらう」文末形式とそのタイ語の翻訳を比較しながら

ら、言語間の相違点から見たさまざまな比較検証を行う。そして、「～てもらう」文末形式に適切な翻訳の方法を提案したいと思う。

### 3.2.1 hâi を用いる表現

先行研究にも述べたように、「～てもらう」表現は、使役助動詞 hâi に翻訳される傾向がある。「hâi」は Upakitsilapasarn (1968)、Thonglo (1977) は「助動詞」とし、Dejthamrong (1970)、Wongsantiwanich (1983) Thepkanjana (1986) は「使役動詞」として考えている。「hâi」を用いる構文は以下のように説明できる。

〈《人1》+hâi+《人2》+動詞句〉

《人1》=行為を強制する主体 (話し手)

《人2》=強制された動作の行為主体 (聞き手)

〈《人1》+hâi+《人2》+動詞句〉構造において《人1》は hâi の後の動詞の有り様、状態を作動させるように働きかけるものである。一般の「～てもらう」表現はタイ語の hâi で表されることが多いが、日本語の使役構文にも hâi を用いることができる。

#### (12) ฉันให้น้องชายช่วยงาน

chǎn	hâi	nóngchaai	chûai	jaan
代名詞(主語)	動詞	名詞(間接目的語)	動詞	名詞(目的語)
私	させる	弟	手伝う	仕事

[私は弟に手伝ってもらった/私は弟に手伝わせた]

「私は弟に手伝ってもらった」は、話し手である「私」に視点を置いて、動作主である「弟」に働きかけて、そして、「手伝わせた」結果、話し手にとってメリットがあり、都合がいい状況にあると解釈できる。この構文はタイ語では〈《人1》+hâi+《人2》+動詞句〉構文で翻訳されることが多い。しかし、使役構文である「私は弟に手伝わせた」もタイ語に翻訳すると、同じ〈《人1》+hâi+《人2》+動詞句〉になる。つまり、「～てもらう」の使役の意味はタイ語では hâi で表わせるが、恩恵や利益やメリットなどは表せない。

「hâi」は《人1》の働きかけが動作主《人2》に向かっていることを補強し導くものであり、その際、文脈によっては「働きかけ」の意味だけでなく、「命令」の意味ももち、動詞句を表す状態を達成させる使役動詞として捉えられる。した

がって、意味・機能の面においては、この「hái」の構文は「命令」に近い機能をもっている「～てもらおう」文末形式に相当する。

ただし、「～てもらおう」文末形式を翻訳する際は、未来を示す助動詞「cà」と一緒に用いるとよいのではないだろうか。なぜなら、「～てもらおう」文末形式は命令文と同様に、実現されるべき動作・行為は未来において行われることが前提として、発話されているからである。

(13) ผม จะให้คุณประกอบ

phǒm	<u>cà</u>	<u>hái</u>	khun	prakòp
代名詞	未来	助動詞	代名詞(間接目的語)	動詞
私	未実現	させる	あなた	組み立てる

[私は君に組み立ててもらいます]

さらに、下に示すように「～てもらおう」構文と hái の構文はよく似た構造を持っている。つまり、両者とも述べ立て文で、同じ視点を持ち、文中に話し手と聞き手が明示的に現れるので、原文の構造を保持したまま翻訳することができる。

日本語：〈《人1》は《人2》に～てもらおう〉

タイ語：〈《人1》+cà+hái+《人2》+動詞句〉

ただし、厳密には日本語の原文では「私(話し手)」や「あなた(聞き手)」はあまり表現上明示的にならず、しばしば「条件を表す副詞句+「あなた(聞き手)」には～してもらおう」という表現でよく見られる。これに対応してタイ語にも日本語と同様に条件を表す〈【《人1》+動詞】、【《人1》+cà+hái+《人2》+動詞句】〉構文があり、それを提案したい。

日本語：〈【条件を表す副詞句】、【《人2》に～してもらおう】〉

タイ語：〈【《人1》+動詞】、【《人1》+cà+hái+《人2》+動詞句】〉

〈【《人1》+動詞】、【cà+hái+《人2》+動詞句】〉

したがって(11)をより適切な表現にしたのが(14)である。

(14) หม่อมฉันจะให้ท่านประทับอยู่ในวังหลวงจนกว่าหม่อมฉันจะอนุญาตให้ออก

mòomchǎn	<u>cà</u>	<u>hái</u>	thāan	prathápýu	nai	wanglǔan
代名詞(主語)	未来	助動詞	代名詞(動作主)	動詞	助詞	補足語
わたくし	未来	させる	あなた	留まる	中	王宮

con kwáa	<u>mòomchǎn</u>	cà	ʔánúyáat	hái	ʔòok
副詞	代名詞	未来	動詞	助動詞	動詞
まで	わたくし	未来	許可する	ように	出る

[私は許可するまであなたにはいていただきます]

このように、意味・機能においては、使役助動詞 hái を用いる言い方は、未来を表す助動詞 cà を一緒に使用することによって、「～てもらう」文末形式の「強制性」と近い機能を表すことができる。文の構造上も似ているので、翻訳する際、この表現を用いるのがよいのではないのかと思われる。

ところが、使役助動詞 hái を用いる言い方はすべての「～てもらう」文末形式に相当するわけではない。この構文はやや長いので、誤解を招く構文でもあるから、短い原文や動作主が明示されてない原文には使いにくいように思われる。ところが、(15) (16) のように、話し手が文頭に明示されず動作主のみ現れる文や、話し手も動作主も現れない文の場合は、hái を用いた構文では表しきれないのではないか。確かに無理やりに話し手や動作主を明示することが可能ではあるが、文脈によりその判断が難しい場合がある。そこで、次の節では、この表現以外の翻訳の方法を検討したい。

(15) 六花：そんなことを聞いたら、返せるわけじゃない！！

立夏：返してもらいます。

(水)

(16) 答えるまで、ここにいてもらいます。

### 3.2.2 tɔŋj を用いる言い方

松山納『日タイ辞書』第一版発行（大学書林）には、以下のような記述がある。

ຕ້ອງ [tɔŋj] [動詞] ①当る、つき当たる、触れる②蒙る、受ける、される③適合する、符合する、一致する。[助動詞] ～しなければならない、必須、必ず、当然の

tɔŋj は助動詞として用いられる場合、「～しなければならない」「必須」「必ず」「当然の」という意味になり、当為表現として認められるが、発話時に聞き手が

存在すると、当為を描写しているにとどまらず、話し手が聞き手に何らかを働きかけているように解釈できる。時に、ต่อง は「必須」「必ず」という意味をもっているため、その文は日本語の「～てもらう」文末形式の強制性に当たるのではないかと考えられる。さらに、ต่อง を用いると、行為の実現時間の制約が弱まるため、เดี๋ยวนี้อย díaw níi ləoi (今すぐ) などの副詞と共起しない限り、行為の実現する時間が未来にわたって、これから先に実現してもいいという解釈が可能になる。

(背景)

ユーリ： イル・バーニ…… でも……！

イル・バーニ：これ以上のわがままは認められません。

このまま出国していただきます。

我々がこの国に来たのはユーリさまを連れもどすためだというのをお忘れなく？

(天)

(17) ท่านต้องออกจากประเทศนี้ไปแบบนี้แหละ (sawan)

thāan	<u>ต่อง</u>	ʔook	càak	pràthêetnii	pai	bèepnii	lè
代名詞	助動詞	動詞	助詞	名詞	動詞	副詞	終助詞
あなた	すべき	出る	から	この国	行く	このように	

[このまま出国していただきます]

(背景)

蒼子：わたしでも彬に役に立てるなら思うどおりにして。

彬：その言葉は忘れるなよ、蒼子！

人質交換までおとなしく付き合ってもらおうぞ。

(蒼)

(18) เธอต้องอยู่กับฉันจนกว่าจะมีการแลกเปลี่ยนตัวประกัน (ma)

thəə	<u>ต่อง</u>	yùu	kàp	chǎn	conkwàa	cà
代名詞	助動詞	動詞	助詞	代名詞	副詞	未来
あなた	すべき	いる	と一緒に	私	まで	未来

mii kaanlɛ̀kpliantuaprakan

動詞 名詞(補足語)

起きる 人質

[人質交換までおとなしく付き合ってもらおうぞ]

(17) (18) は「強制性」をもつ典型的な「～てもらおう」文末形式である。(17) では、話し手である「イル・バーニ」はこの帝国の皇帝陛下の乳兄弟でもあり、皇帝陛下の名参謀として国政を補佐している人物である。一方、聞き手の動作主は皇帝陛下に愛されている側室でもあり、この帝国の命運を握る戦いの女神である。話し手は相手の理由を聞かず、自分が指向した行為以外には選択肢はないとして、その行為を実行させる強制性を発動する。つまり、話し手は自分と同じくらいの地位をもっている相手に「出国する」という行為を強制する際、「～ていただく」あるいは「～てもらおう」文末形式が用いられる。(18) も同様である。

しかし、(17) は「このまま」という副詞句があり、「今すぐ」行わなければならないように感じられる。一方、(18) では、「今すぐ」という時間の制限が感じられない。話し手は、行為を実現させる時間を明示してないため、行うのは未来であればいいのであって、「人質交換」の時まで、その行為は遂行しなくてもよいのである。このように tɔ̀ŋ を用いることによって、「～てもらおう」文末形式の「強制性」だけでなく、実現する時間の制約も反映することができる。

さらに、両言語の構造を考察すると、tɔ̀ŋ を用いる言い方も「～てもらおう」文末形式も共に述べ立て文の構造を有している。tɔ̀ŋ の前には必ず動作主がくるため、「あなたに～てもらおう」という表現や相手への呼べかけがある時など、文頭に動作主が明示される「～てもらおう」文末形式には適当だと考えられる。

日本語：〈《人2》に～てもらおう〉

タイ語：〈《人2》+tɔ̀ŋ+動詞句〉

このように、tɔ̀ŋ の使用によって、文頭には動作主が明示しやすくなる。使役助動詞 hǎi を用いた (14) を (19) のように tɔ̀ŋ を用いた言い方にした場合、tɔ̀ŋ を用いたものの方が簡潔になるため、タイ語に翻訳する場合は好ましいと言える。

(19) ท่านต้องประทับอยู่ในวังหลวงจนกว่าหม่อมฉันจะอนุญาตให้ออก

thâan	<u>tɔ̀ɔŋ</u>	phrathápyuu	nai	wanlúang	
代名詞(主語)	助動詞	動詞	助詞	補足語	
あなた	すべき	留まる	中	王宮	
con kwaa	<u>mòomchǎn</u>	cà	ʔánúyáat	hái	ʔòok
副詞	代名詞	未来	動詞	助動詞	動詞
まで	わたくし	未来	許可する	ように	出る

[私は許可するまであなたにはいていただきます]

tɔ̀ɔŋ を用いる言い方はタイ語では直接の命令形式ではないが、発話時に聞き手が存在して、聞き手に向かって、聞き手が必ずやらなければならないという文脈である場合、「必ず」と「必須」という意味から派生して、「強制性」の意味合いになると考えられる。tɔ̀ɔŋ を用いると、「～てもらう」文末形式のように、行為の実現時間の制約が弱まっていくので、「～てもらう」文末形式に相当する意味をもっていることがわかる。さらに、tɔ̀ɔŋ の使用によって、文頭には動作主が明示しやすくなるという利点があり、日本語の原文における構文とも一致する。

### 3.2.3 命令形を用いる用法

「～てもらう」文末形式は命令に近い機能、いわゆる「強制性」をもっているが、命令文とはまったく同じものではない。また、これまでの先行研究、およびタイ語で書かれた日本語の教科書などでは、「～てもらう」文末形式が命令文で翻訳されているものは管見では見られなかった。それはタイ語に翻訳する際、「～てもらう」文末形式の機能が十分に理解されていなかったからであろう。そこで、ここでは「強制性」に近い機能をもっているタイ語の命令形式を工夫して、「～てもらう」文末形式が表現できないかどうかを見る。「～てもらう」文末形式がタイ語の命令形式で翻訳できる理由は、両形式が似たような要因をもっているからである。両言語を比較するために、まず、タイ語の命令形式について紹介したい。

タイ語の命令形式は、『実用タイ語会話』というタイ語の文法書には以下のよう

①動詞を強い語調でいうと命令形式になる。

ไป pai 行け!

เรียน ญีป ยากましい! だまれ! 静かに!

② con という助動詞をつけて命令形になるが、話し言葉では用いない。神が述べる言葉や格言などでも用いられる。

ขงตอบคำถามต่อไปนี้

<b>con</b>	tòp	khamthăam	tòpainii
命令形	動詞	目的語	修飾語
～なさい	答える	答え	これら

[次の質問に答えなさい]

③命令文の末尾に～ dúi とか～ nòi、～ sá、～ sì kh rǎp/khá、～ ná kh rǎp/khá などをつけると強制性がやわらげられる。

ขอด้วย

còt	pái	<b>dúi</b>
動詞	目的語	終助詞
とまる	停留所	～なさい

[停留所でとまってください]

なお、Bandahumedha (1982) によれば、タイ語の命令文は日本語の命令文と同様に、主語がなくても、その文には主語が存在しないわけではないとしている。この点では、日本語の命令文と同様に、つまり、動作主を省略しても、聞き手は自分が動作主であると解釈できるため、わざわざだれが動作主かを明示するよりも、どのような行為を働きかけているかを明示したほうが効果的であるとしている。

一方、命令文では、動作主を表現すると、聞き手が焦点になって、「他の人でなく、君が」あるいは「君のほうが」という排他的、対比の意味になる。要するに、話し手は他の人でなく、聞き手である「君」あるいは「あなた」に命令の内容を行ってほしいという意味になる。



## คุณไปยกเก้าอี้มาซิ

<b>khun</b>	pai	yók	kâu?ii	maa	si
代名詞(主語)	動詞	動詞	目的語	動詞	終助詞
あなた	行く	運ぶ	椅子	来る	なさい

[君、椅子を取ってきて]

命令形式は、使役助動詞 hai を用いる言い方では翻訳できないので、文頭に動作主が明示されない文などにも適当である。既に述べたように、タイ語の命令形式は文頭に動作主がないのに対し、「～てもらおう」文末形式も同様に動作主を表さない文が少なくないからである。

(背景)

ユーリ：ラムセス！！ 無事だね！？

王太后：誰だ！？

ユーリ：王太后！！ ワセル・ラムセス將軍を返してもらいます！！

(20) พระชนนี โปรดปล่อยตัวแม่ทัพพลูเชลรามเชษฐ (sawan)

phráchonnanii	<b>pròt</b>	plóoi	tuame'etháp	?uuseeraamseew	sá
代名詞(呼びかけ)	動詞	動詞	目的語	固有名詞	終助詞
王太后	お願い	解放	將軍の身柄	ワセル・ラム	ス なさい

「王太后！！ ワセル・ラムセス將軍を返してもらいます！！」(天)

(21) พระชนนี ปล่อยตัวแม่ทัพพลูเชลรามเชษฐ

phráchonnanii	<b>próoi</b>	tuame'etháp	?uuseeraamseew	sá
代名詞(呼びかけ)	動詞	目的語	固有名詞	終助詞
王太后	解放	將軍の身柄	ワセル・ラム	ス なさい

「王太后！！ ワセル・ラムセス將軍を返してもらいます！！」(天)

(22) พระชนนี จงปล่อยตัวแม่ทัพพลูเชลรามเชษฐ

phráchonnanii	<b>cong</b>	plóoi	tuame'etháp	?uuseeraamseew	<b>sá</b>
代名詞(呼びかけ)	命令形	動詞	目的語	固有名詞	終助詞
王太后	しなさい	解放	指揮者の身柄	ワセル・ラム	ス なさい

「王太后！！ ワセル・ラムセス將軍を返してもらいます！！」(天)

(背景)

兵隊：姫、立夏姫はどこにおられる！？

姫： な 何事でしょう。さむらいたちがこの館くるなどめずらしい……

兵隊：姫、一緒においでいただきます。 橋の人柱に！！

姫： 私も人柱に！？ な……なぜです！？

兵隊：姫はわき腹とはいえご領主の姫 そのお役目がおありでしょう。

(水)

(23) ท่านหญิง จะไปกับพวกเรา

thāanyīn [cɔŋ] pai kàp phūakrau

代名詞 命令形 動詞 助詞 代名詞

姫 しなさい 行く と一緒に 私たち

[姫、一緒においでいただきます] (水)

(20) では、話し手であるユーリはワセル・ラムセス將軍の正妻であり、王太后に向かって「返す」という行為を強制して発話している。しかし、実例のタイ語訳を見ると、翻訳者は依頼表現を用いている。文中に現われた pròot は「お願い」と言う意味で、非常に丁寧で、正式な場面でよく用いられる。そこで、この訳は原文には適切ではないように思われる。そのため、動詞を強い語調で言ったり、(21) のように末尾に ~sá などをつけると、命令文になり、聞き手を強制させることができる。

(22) と (23) での翻訳ではわざと格式のある言い方 cɔŋ を用いて、強制的の意味を表現した。(23) は「～ていただく」の形式で強制性を明示している文である。「～ていただく」は「～てもらう」の丁寧形として扱われている。地位の低い兵隊が高い地位をもっている姫に命令する時には、cɔŋ を用いることによって、話し手は「聞き手の決定権は話し手にある」ことを示しながら、地位が高い「姫」への敬意を表すことができる。

(20) ～ (23) は文頭には動作主である「姫」「王太后」などが発話されているが、その「姫」「王太后」は呼びかけとし、「他の人ではなく、姫が動作主である」と主張していると解釈できる。そのため、この文もタイ語の命令文に翻訳しても適切であると考えられる。また、原文の例は動作主が省略されていることが多いので、

タイ語に翻訳する際、そのまま命令形式に翻訳することもできる。

しかし、タイ語の翻訳において、命令形式であれば、どれでも使用できるわけではない。タイでは社会的立場における上下関係が言葉の上で厳密に反映されるので、強い命令形式を避けなければならない場合もある。そういう場合は③命令文の末尾に～*dúai* とか～*nòoi*、～*sá*、～*si kh ráp/ khá*、～*ná kh ráp/khá* など、強制性がやわらげられる意味をもつ命令形式を選択したり、タイ語の命令形式を工夫する必要がある。つまり、話し手と動作主の関係や立場を重視し、*tɔŋ* を用いる言い方などの暗示的な命令の用法で動作主への強制性を表現する。

#### 4. まとめ

「～てもらう」文末形式は一般の「～てもらう」とは違って、メリットや使役ではなく、命令に近い「強制性」を有している。そのため、タイ語に翻訳する際、一般的に「～てもらう」がもっている表現では、この構文の意味が伝えきれないことから、その機能に近いものをもっている他のタイ語の表現が求められる。そこで、本稿では① *hái* を用いる表現 ② *tɔŋ* を用いる表現③命令形式を用いる表現の3つの形式を提案した。3つとも、話し手が動作主に強く働きかけようとする機能が存在するが、それぞれ条件に合わせていずれかを選択する必要がある。

##### ① *hái* を用いる表現

この表現は従来の「～てもらう」に相当する *hái* の構文と違い、〈《人1》+*cá*+*hái*+《人2》+動詞句〉という形式で翻訳する。しかし、文中に話し手が明示されてない原文には適切ではない。

##### ② *tɔŋ* を用いる表現

文頭に話し手ではなく動作主を置くため、話し手を明示していない「～てもらう」文末形式、あるいは〈《人1》は《人2》に～てもらう〉という原文に適切である。

##### ③命令形式を用いる表現

文中に話し手も動作主もなく、求められる動作の内容のみを表している文にはこの形式が適当である。

## 参考文献

- 江田すみれ (1983) 「「～てやる・てくれる・てもらう」とタイ語の表現」『日本語教育』49
- 高見健一 (2000) 「被害受身文と「～にVしてもらう」構文」『日本語学』19 明治書院
- 高見健一・加藤鉦三 (2003) 「受益表現の新展開 (6・最終回) 「～てくれる」と「～てもらう」の相違」『言語』32 (6) 大修館書店
- 中田 寛 (2002) 「授受表現における日タイ語対照研究」『対照言語学的手法・視点にもとづく、日本語とタイ語の基本語彙・語法に関する比較研究』
- 仁田義雄 (1988) 「意志動詞と無意志動詞」『月刊言語』17-5 大修館書店
- 仁田義雄 (1991) 「ヴォイス的表現と自己制御性」仁田義雄編『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版
- 仁田義雄 (1991) 『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 益岡隆志 (2001) 「日本語における授受動詞と恩恵性 (特集「授受」の言語学〈やり・もらい〉のコミュニケーション)」『言語』30 (5) 大修館書店
- 益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法』くろしお出版
- 益岡隆志 (1991) 『モダリティの文法』くろしお出版
- 山田敏弘 (2004) 『日本語のベネファクター—「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法—』明治書院

## บรรณานุกรม

- กำชัย ทองหล่อ. หลักภาษาไทย. พระนคร รวมสาส์น 1977
- นววรรณ พันธุเมธา. หนังสือเรียนวิชาความรู้เกี่ยวกับภาษาไทย ท.092 กรุงเทพฯ โรงพิมพ์คุรุสภา
- \_\_\_\_\_. การใช้ภาษา. สมาคมสตรีอุดมศึกษาแห่งประเทศไทย 1972
- \_\_\_\_\_. ไวยากรณ์ปริวรรตและไวยากรณ์การก. ในเอกสารการสอนชุดวิชาภาษาไทย 3. สำนักพิมพ์สุโขทัยธรรมาริราช 2001
- \_\_\_\_\_. ไวยากรณ์ไทย. โรงพิมพ์จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย 2005
- จรัสดา อินทรทัศน์. กระบวนการที่คำกริยาเป็นคำพจนานุกรมในภาษาไทย. วิทยานิพนธ์ปริญญาโท มหาวิทยาลัย. ภาควิชาภาษาศาสตร์บัณฑิตวิทยาลัย 1996
- จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย
- พระยาอุปกิจศิลปสาร. หลักภาษาไทย. บริษัทโรงพิมพ์ไทยวัฒนาพานิช 1968
- ภานุ สังขวร. ความสัมพันธ์ทางอรรถศาสตร์ระหว่างคำนามกับคำกริยาในประโยคภาษาไทย. วิทยานิพนธ์ปริญญาโท มหาวิทยาลัย. ภาควิชาภาษาไทยบัณฑิตวิทยาลัย จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย

- วิภา วงศ์สันต์วินช. คำกริยาการிடในภาษาไทย.วิทยานิพนธ์ปริญญาามหาบัณฑิต.ภาควิชา  
ภาษาศาสตรบัณฑิตวิทยาลัย 1983 จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย.
- อรทัย เดชธำรง. หน้าี่ของคำ "ให้" ในภาษาไทย.วิทยานิพนธ์ปริญญา.แผนกวิชาภาษา  
ไทยบัณฑิตวิทยาลัย จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย.1970
- อมรา ประสิทธิ์รัฐสินธุ์ ทฤษฎีไวยากรณ์,โรงพิมพ์จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย 2001

### 用例出典

日本語の原作とそのタイ語の翻訳版

(蒼) 篠原千絵『蒼の封印』小学館

(ma) MARUTAYUUSIINAMGEN มฤตยูสีน้ำเงิน

(天) 篠原千絵『天は赤い河のほとり』小学館

(sawan) SAWANRIMMEENAAMDANG สวรรค์ริมแม่น้ำแดง

(Peach) 上田美和『ピーチガール』講談社

(pea) PEACH GRIL พีชเกิล

(水) 篠原千絵『水に棲む花』小学館

<キーワード> 「~てもら」文末形式、強制性、命令文

## The Enforcement in the '*temorau*' and Thai Translation

Siriwon MUNINTARAWONG

This paper provides an overview of the Meaning of the Japanese expressions like *-temorau*, *-teitadaku*, one of the Japanese Benefactive constructions. The *temorau* construction is generally understood to represent the direction of the benefit from agent to beneficiary, and so on the requests form the doer to agent. Referring to that result, a number of the comparative analysis research done between the Japanese and Thai language has been done in the same way, which generally translates them by using the Thai generative construction and the Thai request construction.

However it was found that the *temorau* construction also expresses the act of enforcement in a similar meaning of the imperative contraction which appears only in the dictionary form in the end of the sentence. In this paper, we call such expressions [*temoraubunmatsukeishiki*] and investigate how to translate it to Thai language.

Focusing on Grammatical construction and meaning , it was found out that using the word [hâi] [t๕๗] and Thai imperative construction is the appropriate way to translate the *temoraubunmatsukeisiki*.